



タマガイ（盤足目タマガイ科）の仲間の貝類

大きさ：殻長 2cm ほど。

少し海水の残った砂質状の干潟の褐藻類上を、日中に歩いていた。おそらく、タマガイの仲間の貝類であると思われるが、夜間に活動する種類がほとんどである。沖縄では、アラゴマフダマやヒロクチリスガイ、ツツミガイ、ヒメツメタガイ沖縄型など 40 種類ほどが知られている。

一般に球（タマ）または丸もち形の殻をもち、砂泥地から岩礁のすき間の砂礫地まで、潜入生活のできる環境に生息する。タマガイの仲間は、貝類専門の肉食性で、歯舌（シゼツ）による物理的な方法と穿孔（センコウ）腺による化学的な方法（酸で溶かす）を使って、殻に穴をうがち、貝の中身を食べる。特に二枚貝が好物である。

タマガイの仲間は、砂粒と粘液をこねてつくった独特の形の卵のう（通称：砂茶碗、写真右側）を産む。泡瀬地区の干潟には、この砂茶碗が多く観察できる。